報道資料

令和元年５月１４日

～日本紅斑熱患者の発生について～

○ 県内で、今年1例目となる日本紅斑熱の患者が発生し、5月8日に亡くなられていたことを確認しました。

○ 日本紅斑熱は、病原体リケッチアを保有するマダニに咬まれることで感染するとされており、感染予防策としては**マダニに咬まれないようにすること**が重要です。

○ **春から秋は、マダニの活動時期です**。森林や草地などマダニが多く生息する場所に入る場合には、**長袖、長ズボンを着用する**など**マダニに咬まれないよう十分な対策**を講じて下さい。袖やズボンの裾に隙間ができないよう、できるだけ**肌の露出を少なくする**よう注意して下さい。

＜患者の概要＞

（１） 患者

女性（９１歳）、天草市在住

（２） 職業

無職

（３） 症状

発熱、発疹（薄い）、関節痛、筋肉痛、播種性血管内凝固症候群（ＤＩＣ）、肝機能異常、腎機能異常、血小板減少

（４） その他

背部に刺し口あり

（５） 経過

4月29日、5月1日　畑で茶摘み　等

5月2日　右肩痛、発熱（３７．５度）でＡ医療機関を受診

5月4日　発熱（３９度台）、Ａ医療機関を再診後入院

5月7日　日本紅斑熱疑いのためＢ医療機関へ転院

5月8日　検体（全血・血清・痂皮）を県保健環境科学研究所へ搬入
夕方～人工呼吸器装着し、治療を継続するも夜中死亡

5月9日　検体より日本紅斑熱陽性確認

（裏面あり）

参考

■日本紅斑熱とは

・日本紅斑熱は、細菌であるリケッチアに感染することによって引き起こされる病気で、４類感染症に分類されています。

主な症状：発熱、発疹、刺し口が主要三徴候であり、倦怠感、頭痛を伴う
治療方法：抗菌薬
感染経路：マダニによる咬傷
潜伏期間：２～８日間

※マダニは､衣類や寝具に発生するヒョウダニなどの家庭内に生息するダニと異なり、主に森林や草地に生息、全国的に分布している。

■ダニ媒介性疾患の予防対策

・今回確認された日本紅斑熱はダニ媒介性疾患の１つです。
・ダニ媒介性疾患の感染予防対策としては、ダニに咬まれないようにすることが重要であり、以下の点に注意して下さい。

① 森林や草地などマダニが多く生息する場所に入る場合には、長袖、長ズボン、足を完全に覆う靴などを着用し、肌の露出を少なくすること。ＤＥＥＴやイカリジン（虫よけ剤の成分）を含む虫よけスプレーも有効です。
② 屋外活動後はマダニに咬まれていないか確認すること。
③ 吸血中のマダニに気がついた場合、マダニに咬まれた後に発熱等の症状があった場合は、医療機関を受診すること。
④ 野生動物や飼育している動物に注意すること。

■熊本県でのダニ媒介性疾患の年間発生件数（今回の事例を含む） R1.5.13 現在

年	H18～H26	H27	H28	H29	H30	R1	合計
日本紅斑熱	１３５件	１１件	１９件	１４件	７件	１件	１８７件
つつが虫病	７４件	１１件	２０件	１０件	１０件	０件	１２５件
ＳＦＴＳ※	５件	１件	１件	１件	５件	０件	１３件

※ＳＦＴＳは、平成２５年３月４日から届出対象疾病となった。

記録が残っている平成１８年以降の死亡例は、日本紅斑熱４件（今回を含む）、つつが虫病０件、ＳＦＴＳ４件（別に、感染症死亡疑い者の遺体からのウイルス検出が１例あり）。

○つつが虫病

ダニの仲間であるツツガムシに咬まれることで感染し、５～１４日の潜伏期間を経て、典型的な症例では、３９℃以上の高熱を伴って発症し、その後数日で体幹部を中心に発疹がみられる。また、患者の多くが倦怠感、頭痛を伴う。治療法は、抗菌薬の投与。

○重症熱性血小板減少症候群（ＳＦＴＳ）

マダニに咬まれることで感染し、６～１４日の潜伏期間を経て発症し、発熱、消化器症状、リンパ節腫脹、出血症状などを伴う。致死率６～３０％。治療法は、対症療法。

（お問い合わせ先）
健康危機管理課感染症・新型インフルエンザ対策班　担当：山田（崇）
電話：096－333－2240（直通）（内線 7080,7082）

厚生労働省

ダニ対策

「ダニ」にご注意ください

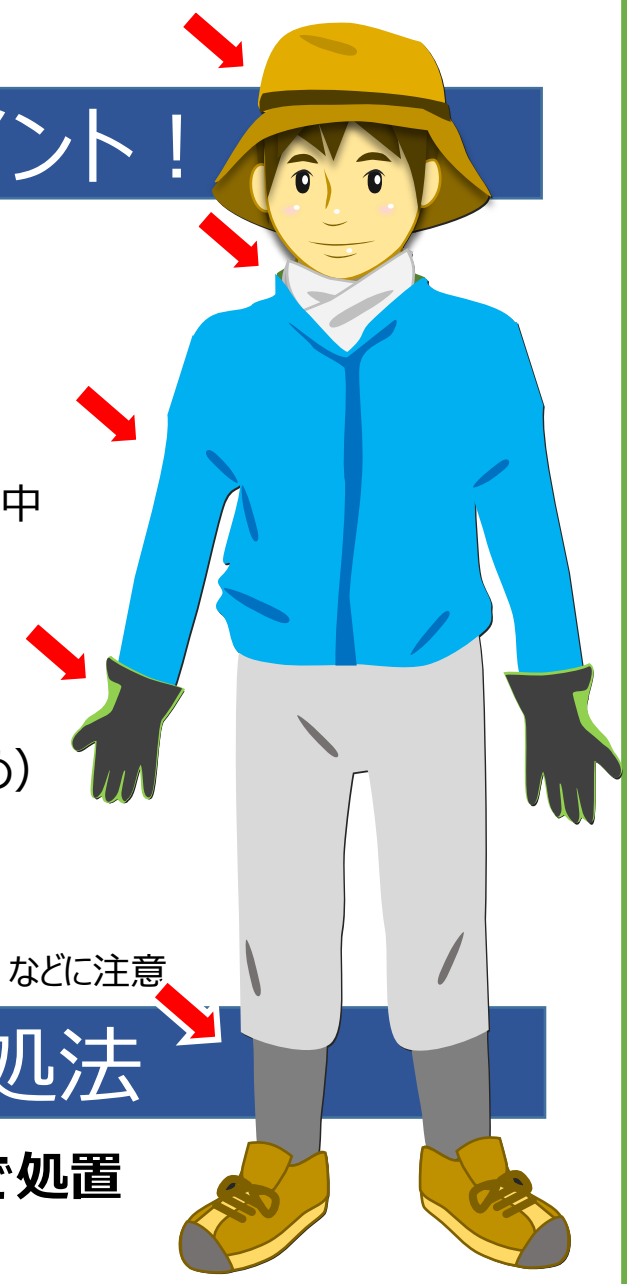
山や草むらでの野外活動の際は、ダニに注意しましょう

春から秋にかけてキャンプ、ハイキング、農作業など、山や草むらで活動する機会が多くなる季節です。

野山に生息するダニに咬まれることで

重症熱性血小板減少症候群(SFTS）、ダニ媒介脳炎、日本紅斑熱、つつが虫病、ライム病など

に感染することがあります。



ダニに**咬まれない**ためのポイント！

- **肌の露出を少なくする**

  ⇒帽子、手袋を着用し、首にタオルを巻く等

- **長袖・長ズボン・登山用スパッツ等を着用する**

  ⇒シャツの裾はズボンの中に、ズボンの裾は靴下や長靴の中

- **足を完全に覆う靴を履く**

  ⇒ サンダル等は避ける

- **明るい色の服を着る**（マダニを目視で確認しやすくするため）

＊ 上着や作業着は家の中に持ち込まないようにしましょう

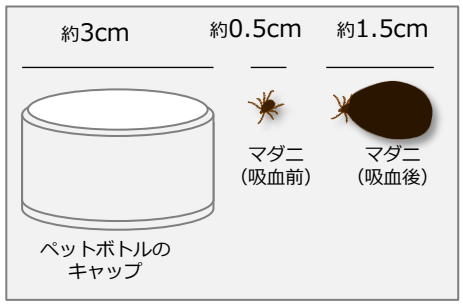
＊ 屋外活動後は入浴し、マダニに咬まれていないか確認をしましょう

特に、わきの下、足の付け根、手首、膝の裏、胸の下、頭部（髪の毛の中）などに注意

ダニに**咬まれたとき**の対処法

- **無理に引き抜こうとせず、医療機関（皮膚科など）で処置**（マダニの除去、洗浄など）をしてもらいましょう。

- マダニに咬まれた後、**数週間程度は体調の変化に注意**をし、発熱等の症状が認められた場合は**医療機関で診察**を受けて下さい。



【受診時に医師に伝えること】

①野外活動の日付け、②場所、③発症前の行動

ダニ媒介感染症（厚生労働省）

各地域のダニ媒介感染症の状況については各自治体HPも参考にしてください

平成29年４月